

「できたよ！」

遠足バスの中で4歳児のLちゃんが不安な気持ちを訴えてきました。



わかったよ。Lちゃん。ちゃんと教えてあげるからお茶を飲むは言てね。



保育士の言葉にホッとした表情がもどりました。

先生、ぼく水筒のあけ方、わからん…。

目的地の公園に着くとみんな大喜び。かけこをしたり大型遊具やアスレチックに挑戦するなどのびのびと身体を動かしてあそびました。



ぼくも!

フラニコに乗ってくる

ワン!

ぼく登り棒。おむすさんみたいにのびるよ。

そして待ちに待ったおがあさん弁当の時間。

先生、見ろ!! ぼく、自分で水筒あけられたよ。



はれはれ

お弁当をあけた喜びの車輪の中でLちゃんが立ち上がりました。



わたしの弁当見て

うん!

一緒に食べようね。

Lちゃん、えらいね。ひとりであけられたね。

水筒のふたを自分であけることができた喜びがLちゃんの満面の笑顔から伝わってきました。子どもたちのさまざまな気持ちを受け取めたり共有したりすることが、次の活動への意欲につながっていくよう援助していきたいと思っています。

「できるかな」

Mちゃん。一緒にお部屋まで行くかな。



よちよち歩きのMちゃんが散歩からもどってきました。

近くにいた5歳児のNちゃんがMちゃんのくつを月替くお手伝いをしてくれました。

Nちゃん、ありがとう。Mちゃん良かったね。



やさしく手を引いてもらい、0歳児のMちゃんもニコニコ顔です。

お部屋まで手を引いてあげたNちゃんも

よちよちうれしそうです。

園全体で歌ったり踊ったりゲームを楽しんだりすることも、異年齢児とのかかわりを深める良い機会となっています。



集会が終わると、小さいお友だちと手をつないで「お部屋まで連れていってあげようとする姿が、おちこちで見られるようになってきました。

あめでなきていいからね。



日常のかかわりの中で、子どもたちのお互いを思いやる気持ちが育まれていくよう援助していきたいと思っています。